

半促成ピーマンのアザミウマ類の発生が多い状況です。

圃場をよく観察し、アザミウマ類が多発生している場合は、速やかに薬剤防除を実施してください。

[現在の発生状況]

5 月下旬現在、半促成ピーマンにおけるアザミウマ類の寄生花率（本年値 75.2%，平年値 40.7%：図 1）

5 月下旬現在、半促成ピーマンにおけるアザミウマ類の被害果率（本年値 13.2%，平年値 0.8%：図 2）

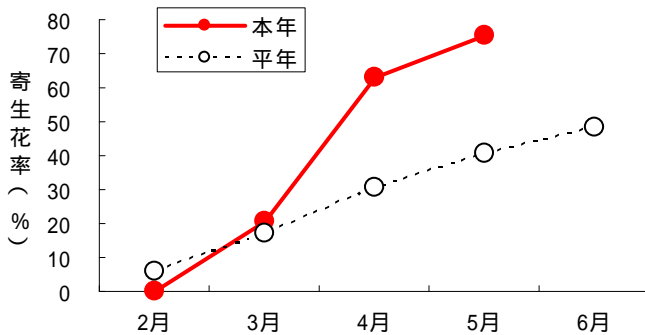


図 1 アザミウマ類の寄生花率の推移

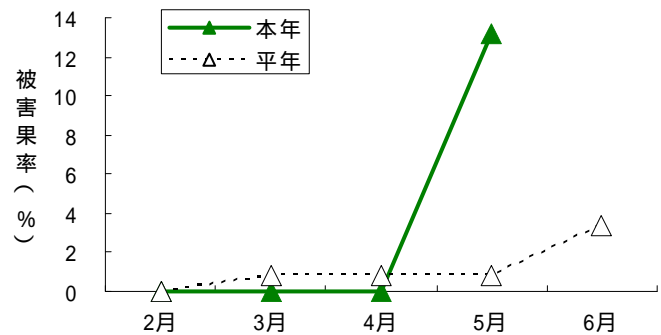


図 2 アザミウマ類の被害果率の推移

加害種は主にヒラズハナアザミウマ

[防除対策]

青色粘着トラップを 10a 当たり 200～300 枚設置すると、防除効果がある。

アザミウマ類が多数発生している場合は、速やかに薬剤防除を行う。

天敵を導入しているハウスでも、アザミウマ類が多発生している場合は、表を参考に薬剤散布を行う。

薬剤は、薬液がアザミウマ類の生息部位である花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。なお、防除の際は、薬剤抵抗性の発達を抑えるために系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

表 ピーマンのアザミウマ類に登録のある主な薬剤（平成25年5月29日現在）

薬剤名	系統	使用時期	本剤の使用回数	天敵農薬（成虫）への影響 ³⁾	
				スルスーガ ¹⁾	リタニ ²⁾ タリケルカ ³⁾
スピノエース顆粒水和剤	マクロライド ¹⁾	収穫前日まで	2回以内	×	-
アクタラ顆粒水溶剤 ¹⁾	ネオニコチノイド ¹⁾	収穫前日まで	3回以内	-	-
アドマイヤー水和剤 ¹⁾	ネオニコチノイド ¹⁾	収穫前日まで	2回以内	-	×
プレオフロアブル ¹⁾	その他	収穫前日まで	2回以内	-	-
コテツフロアブル ²⁾	その他	収穫前日まで	2回以内	-	-
ハチハチ乳剤	その他	収穫前日まで	2回以内	×	-

1) ミナミキイロアザミウマに登録あり。

2) ミカンキイロアザミウマとミナミキイロアザミウマに登録あり。

3) 天敵等に対する影響は野外・半野外試験では：死亡率0～25%，：25～50%，×：75～100%，-：試験事例無し

室内試験では：死亡率0～30%，：30～80%，×：99～100%，-：試験事例無し

（日本バイオロジカルコントロール協議会天敵影響表第21版より）